

## 2019年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	池口 功晃	職名	准教授	学位	博士(経済学)(久留米大学 2019年)
----	-------	----	-----	----	----------------------

研究分野	研究内容のキーワード
観光経済学、地域活性化	日帰り観光、観光の経済効果、産業連関分析

研究課題
<p>観光を通じた地域経済活性化に関する国内のこれまでの研究は、観光地の「魅力」こそ、その核心であると捉えたものが多く、例えば、地域における温泉、食事、レクリエーションなど、いわゆる観光資源の魅力をいかに高めるかということに焦点が当てられてきた。しかし、近年の急速な高速交通網の発達、人々の目的地への移動を短時間で可能ならしめるため、地域経済活性化の研究においては観光地のみならず観光者にも焦点を当て、①観光行動を消費者行動と捉えた消費行動分析、②観光地間の競合関係の分析、③観光客の観光消費額をもとに産業連関表を通じた精緻な経済分析などを通じて計量的・客観的に行う必要がある。そこで、私の研究では、まず観光の概念を整理した上で観光者の行動を制約する2つの要素、すなわち「時間」と「費用」に着目し、その費消関係に対して、経済学の効用概念を援用しつつ、観光行動の類型化とその分析を試みた。そして、観光者による観光目的地の選択場面において、これら「時間」と「費用」が意思決定の重要な要素になるとの仮定のもと、国内の具体的な地域(大分県)を対象に、GIS(地理情報システム)等を用いて、各観光地が取り込む日帰り観光圏を分析し、さらに観光地間の競合関係を明らかにした。次に、大分県14市を事例に大分県産業連関表からそれぞれの産業連関表を作成した上で、観光客の観光消費額をもとに経済効果を測定し、観光がそれぞれの地域経済にどの程度寄与しているかを明らかにした。</p> <p>このように私の研究は、地域社会の課題を「観光」という切り口で捉え、観光を通じた計量的・客観的な地域経済の分析および評価を主とするものである。今後の研究の方向性としては、(i)サーベイ法を用いた日帰り観光の経済効果を計測することにより、日帰り観光の経済効果とその当該地域の産業構造の関係についてより精緻な考察を行うこと、(ii)修正ハフモデルを観光地間の競合関係により深く組み込んで精緻な分析を行うこと、(iii)以上を含めた手法を福岡県、とりわけ北九州にも応用し、九州の日帰り観光を総体として研究することを課題としている。</p>

担当授業科目	
<p style="text-align: center;">(前期)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ (観光文化学科)</li> <li>・国際ビジネス論 (英語・観光文化学科)</li> <li>・初年次セミナーI (観光文化学科)</li> <li>・日本経済入門 (観光文化学科)</li> <li>・ビジネス演習A (観光文化学科)</li> <li>・ビジネス演習B (観光文化学科)</li> <li>・国際経済入門 (英語・観光文化学科)</li> </ul>	<p style="text-align: center;">((後期))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアデザイン論I (観光文化学科)</li> <li>・ビジネスファイナンス (観光文化学科)</li> <li>・多国籍企業論 (観光文化学科)</li> <li>・地域活性化演習A (観光文化学科)</li> <li>・地域活性化演習B (観光文化学科)</li> <li>・ツーリズム演習 (観光文化学科)</li> <li>・旅行産業論 (観光文化学科)</li> </ul>

<p>授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)</p>
<p>授業科目名【 インターンシップ 】</p> <p>本学科は伝統的に学生に対し希望する事業先のアンケート調査をおこない、これに基づいて各事業先にインターンシップ受入れを依頼する方法をとっている。2019年度においては、私が本授業の担当となったためこの方法を踏襲し実施した。具体的な作業としては、①事業先への依頼、②日程の決定、③学生へ連絡、④インターンシップ依頼書および学生の自己紹介書の作成と添削、⑤覚書の作成、⑥起案書作成、⑦学生保険等の手続きなどである。非常に煩雑な作業ではあるが、学生の夢実現へ向けて他学科にはない取り組みをおこなっている。</p>

<p>授業科目名【 国際ビジネス論 】</p> <p>貿易取引のしくみ、貿易書類の読み取り方についてレジュメを作成し、学生に対しわかりやすく説明した。また毎回授業前に前回の授業を踏まえたミニテストを実施し、学習の定着を図っている。</p>
<p>授業科目名【 初年次セミナーⅠ 】</p> <p>毎回授業の最初にディベートの練習をおこなった。テーマは7月におこなわれる本学科のディベート大会のものであるが、ディベートの手順、進め方や考え方を丁寧に細かく説明した。これにより学生のディベートのスキルが少しずつ上達したと自負している。</p>
<p>授業科目名【 日本経済入門 】</p> <p>経済学系の科目は金利、株価、貿易、財政、税などマクロ経済学の基礎を理解していなければ、真に理解できない。そこで、授業の前半ではマクロ経済学の基礎について図や計算による演習をおこない、理解の定着を図った。その後、戦後の日本経済（GHQの占領下～高度経済成長期～石油ショック～バブル経済の発生と崩壊～不良債権問題～アベノミクス）について上述した基礎を踏まえながら順に説明した。この授業では毎回作成されるレジュメを通して実施され、かつ授業前にミニテストを実施しているため、学生は経済用語の単なる暗記に終始せず、さまざまな経済要素が連動していることを理解できるものと思われる。</p>
<p>授業科目名【 ビジネス演習A・B 】</p> <p>毎回作成されるレジュメを通じて、ビジネス社会で必要とされる①仕事への取り組み方や②ビジネスマナー③知っておきたい会計・法律・税金の知識を詳しく丁寧に説明した。また、15回の授業において2回ほど中間テストを実施し、学習の定着を図っている。</p>
<p>授業科目名【 国際経済入門 】</p> <p>日本経済入門と同様、本授業においても金利、株価、貿易、財政、税などマクロ経済学の基礎を理解していなければ、国際経済は真に理解できない。そこで、授業の前半ではマクロ経済学の基礎について図や計算による演習をおこない、理解の定着を図った。その後、①国際収支、②為替レートの設定や為替介入、③国際通貨、④GATT・WTO、⑤地域統合、⑥貧困問題、⑦環境問題など、国際経済を学ぶ上で広く必要な知識を毎回作成されるレジュメを通じて詳しく丁寧に説明している。</p>
<p>授業科目名【 キャリアデザイン論Ⅰ 】</p> <p>大学生の就職・キャリア支援のため、女性活躍推進やWLB推進に取り組む企業の推進担当者（労務・人事担当者など）を講師役として、業種や職種、職業生活における女性の活躍などについて、市内外の企業に勤める社会人を招聘し、リアルな声を聴くための場を講義として設けた。学生に対しては「就職して働くこと」や「自身のキャリア」について真剣に考える場を提供することができた。</p>
<p>授業科目名【 ビジネスファイナンス 】</p> <p>ビジネスではいわゆる数字（例えば、売上、原価、利益など）を読めることが大切である。本授業では、あらゆる業種の財務諸表を授業において実際に扱い、企業財務（ファイナンス）の分析手法について詳しく説明した。この授業により履修者の多くが一定水準の知識をもって財務諸表を読むことができるようになったと自負している。</p>
<p>授業科目名【 多国籍企業論 】</p> <p>経済活動のグローバル化が進むなか、国際ビジネス活動において主要な役割を演じている多国籍企業は、経済・社会・文化などの面で、世界に大きな影響を及ぼしている。このような多国籍企業を理解することを通して、国際ビジネス、（貧困問題を含めた）世界の動き、日本企業、欧米企業などについて詳しく説明した。</p> <p>また、多国籍企業はどのように生成・発展してきたのか、進出先の国、世界、および本社が所在する発祥国にどのようなメリット・デメリットを与えているのか、企業として持続し競争力を強める上でどのような戦略と行動（顧客志向の面など）をとっているのかを、多くの事例を通して学ぶ機会を提供した。</p>
<p>授業科目名【 地域活性化演習A・B 】</p> <p>本授業においては地域活性化の重要な担い手である企業等を中心とした生産主体に着目し、企業と学生の共同作業を通じて地域活性化に資する一定の成果を追求することを目的として実施した。具体的には、企業等の選定～共同作業の提案～成果発表に至る過程でアクティブラーニングの形式をとり、随時企業を訪問し共同作業をおこない、授業最終回ではご協力頂いた企業の担当者様をお招きし、「成果発表会」を実施した。</p>

<p>授業科目名【ツーリズム演習】</p> <p>九州におけるインバウンド観光振興のために、観光マーケティング及びインバウンド観光の知識を有するインバウンド対応型の観光人材の育成が求められている。本授業においては、九州と上海を研究事例として、観光マーケティングとインバウンド観光の理論を詳しく説明した。</p>
<p>授業科目名【旅行産業論】</p> <p>訪日外国人数が 3,000 万人を超えた昨今において本授業では急増するインバウンドの現況とインバウンドビジネスの基礎知識について詳しく説明した。また訪日客の約 8 割はアジア諸国等（韓国、中国、台湾、香港、タイ、シンガポール）の人々であることから、これらの国々の観光・旅行業界の構造と最新トピックスについて説明した。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本企業経営学会 九州都市学会 人文地理学会 経営行動研究学会 観光学術学会 日本観光研究学会 日本地理学会 福岡地理学会	設立発起人	2018年4月～現在に至る 2015年4月～現在に至る 2014年4月～現在に至る 2013年4月～現在に至る 2012年4月～現在に至る 2008年4月～現在に至る 2008年4月～現在に至る 2007年12月～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
<p>(学術論文)</p> <p>【博士学位論文】 日帰り観光の地域経済効果に関する研究—大分県14市の産業構造と観光商圏の分析を中心に—</p>	単著	2019年4月	久留米大学	<p>本論文は日帰り観光の地域経済効果を研究するため、大分県14市を例に日帰り観光者数、一人当たり観光消費額、地域の産業構造の3つをフレームワークとしてこれらの分析および考察を行った。初めに地域の産業構造と日帰り観光の経済効果との関係について産業連関分析を通じて明らかにし、次に、日帰り観光者数の増減要因のミクロ的分析として、「時間」と「費用」の制約下にある日帰り観光者の行動は、これらの観光地における費消割合の組み合わせから得られる効用の大きさによって決定されるとの仮定のもと、これらを要素とした日帰り観光行動の類型化を試み、さらに高速道路の新規開通がもたらす行動の変化について分析と考察を行った。</p>

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				最後に、日帰り観光者数の増減要因のマクロ的分析として、高速交通網の整備に伴う各地の競合関係があるとの仮定のもと、WebGISによる平均的日帰り観光圏の導出を通じてこれらの分析と考察を行った。
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
「輝こう！あまがせ・支援大使」（大分県日田市天瀬町「天瀬公民館まちづくり事業」）	観光に関する助言・指導	2013年9月～現在に至る
宇佐市まち・ひと・しごと創生有識者会議 審議委員	副委員長	2015年7月～現在に至る
津久見市まちづくり推進事業審査委員	副委員長	2016年8月～現在に至る
日田市天瀬農業公園検討委員会	会長	2018年9月～現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
学生募集委員会 学生委員会